

下の3問は出題不適切で、全員○とした。

平成20年度 病理学II (第2病理) 試験問題

III. 下の(1)から(20)の設問で正しい文章の組み合わせを選択し、1-5の記号で答えよ。(各5点、計75点)

【組み合わせの選択肢】

1. a, c, d 2. a, b 3. b, c 4. dのみ 5. 全て

(2) 白血病について

- ☒ a. FAB分類は、ペルオキシダーゼ染色により、慢性白血病を分類したものである。
- ☐ b. 白血病の急性と慢性の区別は、増殖細胞の分化・成熟段階によって分けられる。
- ☐ c. 急性前骨髄性白血病(M3)はレチノイン酸が奏功する。
- ☐ d. 慢性骨髄性白血病では、フィラデルフィア染色体が出現する。

(4) 感染症について

- ☐ a. コッホの4原則とは、①ある一定の病気には一定の微生物が見出されること、②その生物を分離できること、③分離した生物を感受性のある動物に感染させると同じ病気をおこさせること、④そしてその病巣部から同じ微生物が分離されること、である。
- ☒ b. マイコプラズマ肺炎は、画像上斑状影を呈し、病理組織学的には肺胞内の好中球浸潤が目立つことである。
- ☐ c. サイトメガロウイルス肺炎は、CD4陽性リンパ球の数が減少すると、様々なサイトカイン産生能が低下してマクロファージの活性が阻害されることによって生じる。
- ☒ d. 肺の真菌感染症の原因としては、カンジダ肺炎が大部分であり、アスペルギルス肺炎はほとんどみられない。

(7) 循環障害について2

- ☒ a. 左心不全では通常、肉眼的にくずく肝と言われる肝うっ血を呈する。
- ☒ b. 空気塞栓症は100cc以上の空気で発症し、その1つである潜函病は、水圧の急激な低下により血液中の酸素が気泡化して起こる。
- ☒ c. Ischemiaとは動脈における血流低下により起こる可逆的な機能障害であり、心筋細胞・腎臓尿細管上皮・小脳プルキンエ細胞では壊死に陥りやすく注意を要する。
- ☒ d. ショックはcardiogenic・hypovolemic・septicに主に分類される。septic shockにはグラム陽性桿菌の産生するエンドトキシンが主な原因として挙げられる。